

【資料 1】

大阪府「アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会」設置要領

1. 趣旨

「地域人材の活用や学校等との連携による訪問型家庭教育支援事業」実施委託要綱（平成28年1月29日生涯政策局決定）（以下、「国委託要綱」という。）3条に基づき、国委託事業「アウトリーチ型家庭教育支援モデル事業」（以下、「アウトリーチ事業」という）の、円滑かつ効果的な推進が図れるよう、大阪府アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会（以下、「協議会」という）を設置する。

2. 所掌事務

協議会は、次の事項を所掌する。

- (1) 大阪府が委託する市町村の取組みの目標等、事業の方針を決定する。
- (2) 委託市町村での活動をもとに作成された実践モデルの検証等、取組みの分析評価及び指導助言を行う。
- (3) 事業成果を府内市町村関係諸機関等へ周知し、訪問型家庭教育支援の普及促進を図る。

3. 構成委員

協議会は、次に掲げる学識経験者及び関係団体、大阪府関係行政機関の代表者により構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 大阪府社会福祉協議会
- (3) 大阪府小学校長会
- (4) 大阪府公立中学校校長会
- (5) 政策企画部青少年・地域安全室青少年課
- (6) 福祉部子ども室子育て支援課
- (7) 福祉部子ども室家庭支援課
- (8) 福祉部地域福祉推進室社会援護課
- (9) 教育庁市町村教育室小中学校課
- (10) その他、必要と認める団体

4. 座長

構成委員の互選により座長を置くものとし、会議の議長は座長が担う。

5. 事務局

協議会の事務局は、教育庁市町村教育室地域教育振興課が担う。

6. その他

この要領に定めるもののほか、協議会の運営に必要な事項は、座長が協議会に諮って定める。

[附則] この要領は、平成28年5月27日から施行する。

[附則] この要領は、平成28年6月21日から施行する。

第1回 アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会

◆日時 平成28年6月29日（水）13：10から15：10

◆場所 大阪府庁別館 8階共用会議室1

◆概要

第1回推進協議会では、大阪府における家庭教育支援の現状や課題をはじめ、今年度行う「アウトリーチ型家庭教育支援モデル事業」の目的や内容、取組みの成果の検証方法、委託市5市（泉大津市、寝屋川市、大東市、交野市、阪南市）の取組みについての説明等を行い、大阪府・各市の実施内容や教育と福祉の連携等を中心に協議を行いました。



◆主な内容

1. 構成委員、委託市事業担当者、事務局紹介
2. 事業内容の説明（大阪府の取組み説明、委託市5市の取組み説明）
3. 協議
 - ① 大阪府、委託市の実施体制について
 - * 大阪府の人材確保・育成の方法
 - * 既実施市町村におけるサポーター・支援員の人選
 - ② 教育と福祉の連携について
 - * 福祉における家庭訪問やCSWとの連携や活用
 - * 生活困窮者自立支援制度について
 - ③ 効果検証について
 - * 大阪府作成の指標（案）・シートへの助言、注意事項等
4. まとめ



<会議のポイント>

【活動内容についての協議の中で】

- ・各市の取組みの特徴に合わせて、訪問支援活動を行う人材の確保、養成を行うことが有効である。大阪府が養成講座するにあたり、取り組んでいる市の実例を参考にしてほしい。
- ・CSW、民生・児童委員、スマイルサポーターなど、地域で活動する人材との協働を図るなど、取組み成果を生み出すには教育と福祉の連携が重要となる。
- ・訪問支援では、特別なことを行うのではなく、日常的な支援、保護者の動機づけとなる働きかけが大切であり、訪問支援の出口となる機会・場についても、保護者が楽な状態で参加できることが望ましい。

【効果検証についての協議の中で】

- ・府が作成した効果検証の資料を、各市の取組みの状況に応じて活用し最終的に集約しモデル化すればよい。また、訪問支援員参加型で効果検証できると実態に即したものとなる。
- ・量的な成果にこだわるのではなく、質的な成果を見てほしい。また、あまり評価を気にし過ぎると活動が窮屈になり、子どもたちが、地域の中で幸せに生きられることをめざしてほしい。

第2回 アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会

◆日時 平成28年11月11日（金）14:00から16:00

◆場所 大阪府庁 別館8階 共用会議室1



◆概要

第2回推進協議会では、8月から9月に大阪府で実施した「訪問支援員養成講座」や、親学習講座に係る効果検証（中間集計）についての報告、委託市5市（泉大津市、寝屋川市、大東市、交野市、阪南市）から中間成果やその課題、訪問支援の実績等についての報告を行い、具体的な支援体制や福祉部局との連携について協議を行いました。

◆主な内容

1. 構成委員、委託市事業担当者、事務局紹介
2. 大阪府の中間報告
 - * 訪問支援員養成講座の報告
 - * 親学習講座に係る効果検証の中間報告
3. 委託市（5市）の中間報告
 - * 支援体制、方法
 - * 事業の成果や課題、今後の方向性
4. 協議
 - * 各市の支援体制、チーム構成
 - * 福祉部局との連携
 - * 委員からの御助言を紹介
5. 全体を通して、座長、委員より



<会議のポイント>

【府訪問支援員養成講座より】

- ・子どもたちの状況、親の不適切な対応という観点で見ると、特別支援教育、発達障がいに関わる内容を講座として取り入れてほしい。
- ・保護者との関わり方について、実際の困り感に即した対応やどう変化しているのか具体的な視点を教えてほしい。

【取組み状況より】

- ・支援の方向性、方針を固めるために、また小学校、中学校に加え、幼稚園、保育園からの引き継ぎにより効果的な支援となるよう、福祉部局との連携協力をさらに進めてほしい。
- ・子どもは、学校で支援のきっかけを表しているのだから、そこから家族全体の課題の支援につなげていくイメージで取組みを進めてほしい。
- ・家庭教育支援の取組みは、家庭の教育力、養育力の改善にあり、その成果を検証するにあたり、親の変化を指標の一つとして取り扱ってほしい。

第3回 アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会

- ◆日時 平成29年2月3日（金）10:00から12:00
◆場所 大阪府新別館北館1階 会議室兼防災活動スペース2



◆概要

第3回推進協議会では、委託市5市（泉大津市、寝屋川市、大東市、交野市、阪南市）からの事業成果や課題等の報告を行い、大阪府からは今年度の取組み状況・成果や福祉部局による来年度の事業説明も含めて報告を行いました。それぞれについて、具体的な事業体制やSSWやCSW・福祉部局による事業との連携、今後の方向性について協議を行いました。

◆主な内容

1. 構成委員、委託市事業担当者、事務局紹介
2. 委託市（5市）の報告
* 事業の実施体制、成果や効果
3. 大阪府の報告
* 今年度の取組み報告
* 親学習の効果検証結果について
4. 協議
* 福祉部局による事業、CSWとの連携
* 今後の方向性や手法について
5. 全体を通して、座長、委員より



<会議のポイント>

【訪問支援の取組み】

- SSWやCSWの連携、活用と福祉関係機関（事業等）へのつなぎ
- 学校と支援員とのコミュニケーション、課題の共有化
- 支援が必要な家庭への継続したアプローチ
- 訪問支援の入口（端緒）

【事業全体】

- 訪問支援の実施形態と目的、役割を明確にする。
- 量的な成果に質的な成果を加え、取組みをフィードバックする。
- 課題に対応した事例に予防的に対応した事例も加え、取組みが確実に保護者のエンパワーメントにつながるよう集約する。

【資料3】

平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座実施要項

- 1 目的 様々な問題を抱え込み主体的な家庭教育が困難になっている家庭やその子どもに対して、学校や福祉機関等と連携した訪問型家庭教育支援を行う支援人材を養成する。
- 2 対象 次の要件に該当し、市町村教育委員会が推薦する人
 - ① 家庭教育や子育てへの支援活動に関わっている人
 - ② 養成講座の成果を活かして地域での支援活動を担いたいと考える人
- 3 募集人員 50人程度（定員を超える申し込みがあった場合は当課で調整）
- 4 場 所 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）
大会議室1（4階）：[1][2][5]回、 大会議室2（5階）：[3][4][6][7]回
- 5 講座内容

回・日時	主な研修内容	回・日時	主な研修内容
【1】 8/23 (火) 10:00 ∩ 12:15	【講義・ワーク等】 ◎役割の自覚 訪問支援のねらい、支援員としての役割 (担えることと担えないこと) 講師：追手門学院大学 教授 三川俊樹	【2】 8/23 (火) 14:00 ∩ 17:00	【講義・ワーク等】 ◎今日的な教育課題の理解 児童虐待の現状とその改善に向けて 子育てが困難な状況にある家庭の状況 講師：家庭支援課 課長補佐 林 ◎教育課題の理解と学校との連携 学校の現状(子どもの学校生活)と課題(問題行動)、その改善に向けた取組み SSWの取組、学校との連携方策 講師：小中学校課 主任指導主事 石田
【3】 9/1 (木) 10:00 ∩ 12:15	【講義・ワーク等】 ◎寄り添い関わるために 共感、傾聴し、受容的なコミュニケーション をとるための心構えと実践スキル 講師：女性ライフサイクル研究所 Felien 副所長 津村薫	【4】 9/1 (木) 14:00 ∩ 17:00	【講義・ワーク等】 ◎つながる・つなぐために 効果的な訪問支援に向けたネットワーク づくり(教育コミュニティの形成とその意義) 社会福祉と家庭教育支援について 講師：大阪教育大学 准教授 新崎国広
		【5】 9/6 (火) 14:00 ∩ 17:00	【講義・ワーク等】 ◎今日的な教育課題の理解 SNS(スマホ)事情とその向き合い方 講師：地域教育振興課 総括主査 妻木 ◎人権尊重に向けて 講師：地域教育振興課 首席指導主事 池上 ◎今日的な教育課題の理解 生活困窮者自立支援制度について 講師：社会援護課 副主査 上田
【6】 9/14 (水) 10:00 ∩ 12:30	【講義・ワーク等】 ◎寄り添い関わるために カウンセリングマインドを生かした訪問支援の在り方 (泉大津市の訪問支援の現状と課題) 講師：日本プロカウンセリング協会 泉大津校代表 芦澤万里子 ◎訪問型支援の実践例 橋本市ハスティアの取組み 講師：橋本市家庭教育支援チーム「ハスティア」 代表 森田知世子 他1名	【7】 9/14 (水) 14:00 ∩ 17:00	【講義・ワーク等】 ◎役割の自覚 家庭教育の現状と家庭を取り巻く課題 地域の教育力を活かした家庭教育支援の在り方(訪問型支援に期待すること) 講師：大阪成蹊大学 教授 山本智也 ◎親学習について、今後の活動に向けて 講師：地域教育振興課 総括主査 田中

平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座（1日目）

日時：平成28年8月23日（火曜日）

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター
（ドーンセンター）

平成28年8月23日（火曜日）、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて、平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座を開催いたしました。本講座では、全4日12講座のうち、1日目となる3講座を行いました。現在家庭教育支援活動に携わっている方、これから地域での支援活動を担いたいと思っている方々から、市町村教育委員会を通じて60名以上の参加申込みをいただきました。

① 三川 俊樹 氏（追手門学院大学 心理学部 教授） 「役割の自覚—訪問支援のねらい&支援員としての役割—」



本養成講座第1回目として、家庭教育の現状課題やその顕在化の特徴、社会の変化を踏まえた背景要因についてご説明いただきました。

また、過去に携わられた大阪府の家庭教育支援に関する事業の経験から、そこでの成果や家庭教育支援のための仕組みやポイントについて、家庭教育支援員の役割として意識することを事例とともにお話いただきました。

グループワークでは、3~4人のグループに分かれて、それぞれの成功体験を語り、他のメンバーがそのお話について「認める・ほめる・ねぎらう」体験を通して、支援に必要なことや大切にしたいこと等を考えました。

② 大阪府福祉部 家庭支援課 林 美恵子 課長補佐 「児童虐待の現状とその改善に向けて」



子どもの権利やしつけ、児童虐待の種類や現状についてご説明いただきました。虐待者や被虐待児の年齢、虐待相談の経路等、データを用いて現状や最近の傾向について示していただきながら、早期発見の重要性や早期発見のポイントとして意識すること、注意点、保護者や家庭の状況についてお話いただきました。

また、実際に支援員として活動されている参加者が直面したケースについて、事例や虐待対応の仕組みもご紹介いただきながら、支援の方向性について考える機会となりました。

③ 大阪府教育庁 小中学校課 石田 利伸 主任指導主事 「教育課題の理解と学校との連携」



大阪府の生徒指導における現状について、暴力行為、いじめ、不登校等、実際の件数を見ながら小学校、中学校での特徴や考えられる要因についてご説明いただき、生徒指導に関する施策のご紹介、SSWやSC等、専門家の活用について学校との連携、支援員として必要な視点などについてお話いただきました。

また、嫌なことは人それぞれ違う、ということに気付くきっかけになるような簡単なワークも体験し、学校で行っている、成長を促す生徒指導について紹介していただきました。

現状に沿った生徒指導の方法や、その特徴について知る機会となり、学校との連携について考えることができました。

平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座（2日目）

日時：平成28年9月1日（木曜日）

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター
（ドーンセンター）

平成28年9月1日（木曜日）、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて、平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座の2日目を実施しました。本講座では、2日目となる2講座を行いました。

① 津村 薫 氏（女性ライフサイクル研究所 副所長）

「寄り添い関わるためにー共感、傾聴し、受容的なコミュニケーションをとるための心構えと実践スキルー」



支援員として相手に寄り添い関わるために、訪問支援・コミュニケーションにおいて心がけることやその必要性、重要性、注意点等を事例を交えながら具体的にお話しいただきました。

「あなたが大切です」という思いを伝えること、相手とのコミュニケーションにおいて非言語コミュニケーションに注目すること、そのポイントについてのお話があり、バイステックの七原則に基づいた支援の着眼点、注意点についてもお話しいただきました。

また、講演中は簡単なエクササイズをとりいれて、心も体も頭も使ってリラックスした状態で講演を聞くことができました。

事前に先生へいただいていた質問や、その他支援の際に困ったときの対応や疑問等について具体的にお答えいただきました。

最後には、支援のためには支援員のセルフケアとメンテナンスの大切だということ、リラックス方法やストレス対処の方法についてもお伝えいただきました。

② 新崎 国広 氏（大阪教育大学 教育学部 准教授）

「効果的な訪問支援に向けたネットワークづくり（教育コミュニティの形成と意義）」



学校・家庭・地域の協働や、つなぐ・つながる力についてお話いただきました。福祉を「ふだんの・くらしの・しあわせ」と考え、一緒に考えることをキーワードとして今社会で起こっていること、これからの地域との協働のあり方を考えながら、支援員としての連携方法等についてお話いただきました。

福祉教育における、あたたかくやさしい「ナナメの関係づくり」（例えば、親や子どもと訪問型支援員や地域住民等との関係づくり）の大切さ、支援員に担ってほしい役割として、地域との協働における「共助（みんなで協力して解決する）」について、相手の立場に立つことや、ひとりにしないこと、などをお伝えいただきました。

グループワークや簡単なゲームでは、それを通して、人とつながることの良さや、人との交流で自然と笑顔になることや、失敗は必ずあるので恐れる必要がないこと、手をつなぎ協力することの大切さについて自ら気づく機会となりました。

前半の講義と関連させながら、1日を通して、具体的な支援の場面をイメージしながら、相手の立場を考えたり、自分の考えを見つめ直したりして、支援する際のポイントや心がまえを学ぶことができました。

平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座（3日目）

日時：平成28年9月6日（火曜日）

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター
（ドーンセンター）

平成28年9月6日（火曜日）、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて、平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座の3日目を実施しました。本講座では、「SNS（スマホ）事情とその向き合い方」、「人権尊重に向けて」、「生活困窮者自立支援制度」をテーマに3講座を行いました。

① 妻木 靖朗 総括主査

（大阪府教育庁 地域教育振興課 社会教育グループ）

「SNS（スマホ）事情とその向き合い方」



携帯、スマホやそのリスク（歩きスマホの危険性や、ネットいじめ、詐欺など）について、事例とともにご紹介いただきました。無料通話アプリやSNSのそれぞれの特徴や問題点についてもお伝えいただきました。スマホやネットにかかる様々なトラブルを未然に防止するために、その特性を知ることや現実社会で双方にコミュニケーションをとること、約束事を作ることなど、家庭や地域で子どもを守るために大切なことをお話いただきました。

最後に、SNS上で仲間外れになり、部活動の連絡が回ってこないという事例をもとに、その原因や問題点を考え、大人ができること、解決策、再発防止策について意見を交換しました。

② 池上 英明 首席指導主事

（大阪府教育庁 地域教育振興課 地域連携グループ）

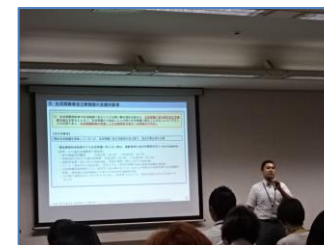
「人権尊重に向けて」



「ちがいを豊かさに」をテーマに、オレンジリボンやイエローリボン等、まずはリボンの意味を知ることがきっかけに、それぞれの運動や現状等について考えることの大切さをお伝えいただきました。障がい者や同和問題、外国人の人権等を通して、身のまわりにある人権問題についてお話をいただきました。支援員としては、親や子どもの「尊厳」と「平等」とキーワードとし、その行動の背景にある気持ちを考えることの大切さについてもお伝えいただきました。最近の話題や講師自身の経験談から、より具体的に、身近に、人権問題について考える機会となりました。

③ 大阪府福祉部 社会援護課 上田 真一 副主査

「生活困窮者自立支援制度」



「生活困窮者自立支援制度」を中心に、リーマンショック、生活保護等、社会の変化など、制度がつくられた背景や、生活にかかるさまざまな制度の必要性・重要性について、お話をいただきました。生活を支えるためのさまざまな制度を知ること、どのような家庭にどのような支援が必要なのか、又、支援員が実際に携わるアウトリーチ事業との関わりや、具体的な連携方法についてもお話をいただき、支援の方向性やその対象、他の支援への連携について知り、考える機会となりました。また、生活困窮生体の子どものための学習支援事業や子どもの貧困対策に係る制度についてもご紹介いただきました。

平成28年度 訪問型家庭教育支援員養成講座（4日目）

日時：平成28年9月14日（水曜日）

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター
（ドーンセンター）

平成28年9月14日（水曜日）、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて、平成28年度訪問型家庭教育支援員養成講座の4日目となる最終日には、実践報告を含む3講座を行いました。

最後には、今までの講座を振り返り、寄り添うこと、子どもや保護者、支援員自身の笑顔など、訪問支援員として大切なことを再確認し4日間の講座を終えました。

- ① 芦澤 万里子 氏（日本プロカウンセリング協会泉大津校代表・泉大津市家庭教育支援チームリーダー）
「カウンセリングマインドを活かした訪問支援の在り方」



泉大津市の家庭教育支援の紹介として、学校や行政との具体的な連携方法や支援方法、支援の目的を「エンパワメント」と捉え、親子の関係において気持ちの面を支援していることをお伝えいただきました。

支援のポイントとして、カウンセリングマインドを活かした受容と共感の姿勢や、子どもの成長を伝えるお土産（話）を持っていくこと、保護者への声かけにおける言い方のコツ等、信頼関係を築き支援していく上でのポイント、支援員としての立ち位置、チーム員同士でうまく連携するための情報交換や相談の大切さについても事例とともにお伝えいただきました。

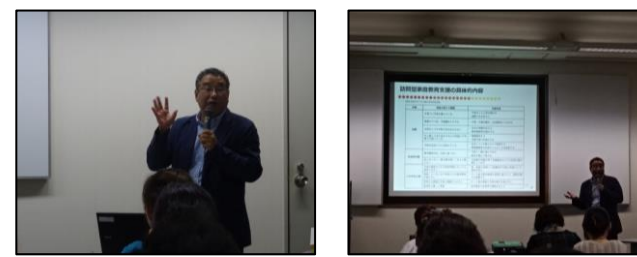
- ② 森田 知世子 氏・松本 裕代 氏
（和歌山県橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」）
実践報告「橋本市家庭教育支援チームの取組み」



和歌山県橋本市の家庭教育支援チーム「ヘスティア」の目的や活動内容、大事にしていること、チームの心構え等についてご紹介いただきました。

活動の目的は「笑顔の子育て支援」。各部の調整を担う本部、子育て情報等を紹介する広報部、語り合いや読書、ものづくりなど年間約100講座を通して保護者同士のつながりづくりのきっかけを企画する講座部、依頼を受けて個別訪問や相談を行い一緒に考えていく家庭訪問部で構成され、それぞれの活動や特徴、困難だった点についてお話しいただき、講座部と訪問部の連携や、チーム員同士の高め合い、支え合いのポイントについてもお伝えいただきました。

- ③ 山本 智也 氏（大阪成蹊大学 教育学部 教授・吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 館長）
「地域の教育力を活かした家庭教育支援の在り方」



家庭を取り巻く環境の課題について、調査や統計から、さまざまな要因からなる少子化や家庭の状況の変化、地域との関わりの希薄化等をご説明いただきました。家庭教育支援チームとして、保護者に寄り添うことや地域の身近な存在としての関わりにおいて必要なことや、親子の関係性を考え、支えるという支援者の役割についてお話しいただきました。

また、相手に合わせる「ジョインニング」や視点を変えて話をよい方に捉える「ポジティブ・リフレーミング」、その他にもトーク、質問のコツ等の具体的な支援技法についてお話しいただき、相手を受容し、寄り添うことが支援者として大切なことをお伝えいただきました。



寝屋川市立北小学校「子育てサロン」

平成28年10月21日

平成28年10月21日（金曜日）、寝屋川市立北小学校で参観日のあと、寝屋川市の親学習リーダーをファシリテーターとして親学習講座を行いました。当日は、保護者6名が集まり、その中には、訪問支援を受けている保護者も家庭教育サポーター（訪問支援員）の声かけにより参加されました。また、校区の民生・児童委員さんも参加されました。

子育て世代のグループと子育てを支援するグループに分かれてワークを行い、子育て世代グループでは大阪府の親学習教材「はなれる」を使用しながら意見交換や情報交換をし、子育てを支援するグループでは、子育て環境の現状や課題、傾向について意見交換をしました。

<p>ファシリテーターは、寝屋川市の親学習リーダー3名</p>	<p>フルーツバスケットや、ドレミの歌を歌うゲームをして、和やかな雰囲気での講座をはじめました</p>	<p>親学習の4つの約束 「参加・守秘・尊重・時間」を確認</p>
<p>子育て世代のグループ 親学習教材「はなれる」(*)を読み、自分ならどうする?と考えたり、子どもの成長について感じることをお話したり、相談する相手など、それぞれの家庭の子育てについて意見交換・情報交換をして、色々な子育てを知る機会になりました。</p>	<p>子育てを支援するグループ 地域の子育て環境についてや保護者についての話をしたり、訪問型家庭教育支援について話をしました。</p>	

※親学習教材「はなれる」は、子どもが忘れ物をして、それを学校に届けるか子どもに尋ねてほしいと先生に連絡する親について学級会で話題になるエピソード。



泉大津市立上條小学校

平成28年11月20日

「親学習講座『夢や希望を育む子育て』in 上條」

平成28年11月20日（日曜日）、泉大津市立上條小学校で、日曜参観後にPTA実行委員会協力のもと親学習を実施しました。学校からの案内で参加者を募集し、当日は23名の方が講座に参加しました。テーマは「夢や希望を育む子育て」。岸和田親学習リーダー会「はっぴねす」から4名のファシリテーターをお招きし、子育てについて話し合いました。

保護者が親学習に参加している間、子どもたちのために、社会人活用による読み聞かせやミニコンサート、泉大津市更生保護女性会の協力で保育を実施しました。

		
<p>上條小学校図書室にて、「親学習講座『夢や希望を育む子育て』in 上條」が開催され、23名の方が参加されました。ファシリテーターは、岸和田親学習リーダー会「はっぴねす」のみなさまです。</p>	<p>初めに、ファシリテーターが親学習の約束を説明します。 「参加」「時間」「尊重」「守秘義務」「傾聴」という約束を伝えました。</p>	<p>次は、アイスブレイク。ゲームで楽しみながら、参加者の気持ちをほぐします。3回勝つまで、いろいろな人とジャンケン続ける「出会いのジャンケン」をしながら、グループ分けもしました。</p>
		
<p>グループでの話し合いです。保護者の方が、最近の悩みや将来への子ども達の夢を楽しく話せる機会にできるように、「夢や希望を育む子育て」をテーマで実施しました。</p>	<p>グループワークを通じて、子どもの将来の夢や、友達関係についてのなどの経験や思いを話し合い、保護者の皆様同士の交流の機会となりました。</p>	<p>親学習を待つ間、参加者の子どもたちのために、読み聞かせやミニコンサートを実施しました。また、就学前幼児のための保育も実施しました。</p>

◆参加保護者からの主な感想

- ・初めての人とも、楽しくお話しできてよかったです。いろいろな意見を聞き、これからの子育てに参考にしたいと思います。
- ・気になっていたことを、他の保護者の方からお話を聞いて参考にになりました。
- ・グループ全員の様々な意見が面白かったです。今後、また頑張ろうと思いました。
- ・他学年の保護者の方とお話しできて楽しかったです。子育てって十人十色なんだと、とてもためになりました。帰ったら、子どもをほめてやりたいと思います。
- ・学校のことや友達のこと等の話を聞くことができ、とても参考にになりました。将来のことも、子どもと話し合いができたらいと思いました。
- ・家族ごとに考え方がとても違うことを知りました。まねできることは実践していきたいと思いました。
- ・いろいろな方のお話を聞いてよかったです。子育てへの考え方の知識も増えました。また、参加してみたいです。ありがとうございました。

交野市旭小学校での親学習

平成28年10月14日(金)

- 日 時：平成28年10月14日(金曜日) 10:30 から 12:30
- 場 所：交野市立旭小学校
- 参 加 者：21名(女性19名、男性2名)
- ファシリテーター：OYA・REN親学習リーダー6名



旭小学校では、学校公開・授業参観の日に親学習講座を実施しました。学校からの案内で募集し、当日は21名の参加者が講座に参加しました。

テーマは「ゲーム・スマホのつきあい方」。親学習教材「ともにまなぶ」を使用し、子どもにいつからスマホを持たせるかや、スマホのルールなどを話し合い、子どもとスマホについて考えるよい機会となりました。また、保護者が困っていることや不安を共有したり、子どもとの話し合いの大切さなど、子どもとのコミュニケーションについて話をすることができました。

<p>講座で使用する名札づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の元気度(%) ・ニックネーム ・子どもの年齢、学年 	<p>ファシリテーターは、OYA・RENの親学習リーダー6名</p>	<p>「親学習」についての説明と、4つの約束(参加する・尊重する・守秘する・時間をまもる)の確認</p>	<p>アイスブレイキング 「もしもしカメよ〜♪」の歌に合わせて手を使った体操 「24時間あったら何する？」をテーマにペアトーク</p>
<p>5つのグループに分かれて、親学習教材のエピソードを読んだり、感想を話し合う</p>	<p><u>親学習教材「ともにまなぶ」</u> 夜遅くに帰ってきた娘が男の子と2人でいたことや携帯電話に出なかったこと、最近家でも遅くまでメールをしていることについて困っている保護者のエピソード</p>	<p>スマホのルールや、スマホについての不安、危険性などの話をはじめ、子どもとのコミュニケーション、話し合い方など、グループごとに色々な話をして、最後に講座の感想を発表</p>	<p>最後に、絵本の読み聞かせ「いい子ってどんな子？」をして講座を終了</p>



阪南市立東鳥取小学校「子育て応援『親学習』」

平成28年10月23日

平成28年10月23日(日曜日)、阪南市立東鳥取小学校の日曜参観日に豊中市の親学習リーダーを講師に招き、「子育て応援『親学習』」と題して教育講演会を開催しました。

		
<p>東鳥取小学校体育館にて、「子育て応援『親学習』」と題して、教育講演会が開催され、PTA企画委員の皆様からの声かけもあり参加者は27名となりました。</p>	<p>親学習リーダーの伴野さんから、親学習ってどんなことをするのか、また話し合いの際の4つのお願いについて説明があり、ワークに入っていました。</p>	<p>「親を知る」の登場人物の気持ちを考え、「親に求める条件」について、グループで話し合いました。</p>
		
<p>自分のありたい姿を思いながら、互いの考えを出し合い、自分の子育てについて語り合う機会となりました。</p>	<p>親学習リーダーより、小学生、中学生、高校生が「親に求める条件」についても紹介され、保護者の方々は興味深く聞き入っていました。</p>	<p>最後に親学習リーダーより「子は親の鏡」を朗読し、日頃のコミュニケーションの大切さ、子どもとの向き合い方についてお話があり、結びとなりました。</p>

◆参加保護者からの主な感想

- ・親として、こうありたいという気持ちを再確認できた。
- ・親学習というタイトルが気になり参加した。子育ては難しく中々思うようにはいかず、悩んでいたが、今日の話聞いて、自分の子育てを見直したい。
- ・親の立場を考える良い機会となった。あまりおごらず、子育てしていきたい。
- ・色々な感じ方(考え方)をしている人がいるので、すごく刺激になった。
- ・あまり「親」ということについて、深く考える機会がなかったので、良いきっかけとなった。
- ・自分が、子どもの時の気持ち、親に言われたことを振り返ることで、今の自分の親としての行動を少し反省した。
- ・子どもの気持ちも大事だと、改めて思うとともに親の言葉がきちんと届くように「がんばらねば」と思った。
- ・もう少し話し合う時間がほしかった。あっという間に終わってしまった感じだ。



豊中市立桜塚小学校での「親学習」の取り組み

《日 時》 平成28年6月28日（火曜日）10時00分から11時45分

《場 所》 豊中市立桜塚小学校

《参加者》 29名（女性28名、男性1名）



今年度、桜塚小学校では、「親学習」を学校と育友会（PTA）が共催で、学期に1回実施することとし、1回目は、対象学年を限定せずに実施します。昨年度は、5年生の児童を対象に「明日の親のための講座」を実施していました。

今回、講師となる親学習リーダーは、伴野多鶴子さん。同校区に在住し学校評議員も務めており、今回の講座実施に向け、学校との企画調整、参加者への呼びかけ等、コーディネーター役も担っています。

本講座では、大阪府教材「親を知る」（門限を過ぎてカラオケで男の子と歌いたいと母親に電話する女子高校生のエピソード）を活用し、親の在り方、親に求めることなどについて、伴野さんとのやりとりやグループワークによる意見交換、自身の子育て、子どもへの対応等を振り返る時間となりました。最後に、「子は親の鏡」を朗読し結びとしました。

《講座のようす》

		
講師の伴野さんから、講座での約束事項を確認	「親を知る」と「子は親の鏡」を使ったワーク	受講者は、呼んでほしい「ニックネーム」を付けて参加
		
「登場人物の気持ち」「あなたなら、家の人なら、どう言うか」「あなたは、家の人にとどう言われたいか」「あなたが親なら、どう言うか」について、受講者と伴野さんとの間で意見交換	「親に求める条件」をグループで話し合い「親はほめるだけではだめ！」「子どもとのスキンシップが大切」「親の都合で、子どもと接してしまっており、もっと子どもと向き合う」等の意見がありました。	

摂津市立鳥飼北小学校

平成28年11月4日

「子育てについて一緒に考えてみませんか?『親学習』」

平成28年11月4日(金曜日)、摂津市立鳥飼北小学校で、PTA 人権教育講演会として親学習を実施しました。OYA・REN から7名の親学習リーダーをファシリテーターとしてお招きし、大阪府の親学習教材「ほめる」を使用しながら、グループワークを行いました。

自分の子どもをほめているかどうか、保護者自身が子どものころにほめられたこと、大人同士でほめているか、など、「ほめる」をテーマに話は弾み、終始笑顔を交えながら、話し合いが盛り上がりました。

		
<p>「子育てについて一緒に考えてみませんか?『親学習』」と題して、PTA 人権教育講演会が開催されました。参加者は25名。</p>	<p>ファシリテーターは、OYA・REN のみなさまです。</p>	<p>まずは、アイスブレイク。2人組でゲームをして参加者の気持ちをほくします。</p>
		
<p>親学習の約束「参加」「尊重」「守秘」「時間」について説明し、ワークに入ります。</p>	<p>次は、ペアトーク。2人組で、自分の子どもについて自慢し合いました。</p>	<p>ゲームをしながらチーム分け。司会者が言った人数に、3秒で集まります。偶然集まったメンバーで、グループができます。</p>
		
<p>「親学習教材のエピソードについて」「自分の子どもについて」「保護者自身の子どもについて」など、様々な「ほめる」について、グループで話し合いました。</p>	<p>ファシリテーターは、様々な「ほめる」について話を促し、一人ひとりの意見を引き出します。「ほめる」言葉の紹介も、意見を引き出す方法の一つです。</p>	<p>最後は、今日の講座で感じたことを、短い言葉で書きます。それを全体で紹介し、みんなで共有しました。</p>

◆参加保護者からの主な感想

- ・みなさんと楽しくお話しできて、いい時間を過ごすことができました。
- ・仕事で疲れて帰ってきて、あわただしく参加しましたが、楽しく貴重な時間になりました。
- ・年齢の違うお子様をお持ちのご家庭の様子を伺うことができ、参考になりました。
- ・皆それぞれ子育てに悩みがあるのだなと思いました。
- ・子どもとのスキンシップが大切だと気付きました。家に帰ったら子どもにやさしく接したいと思います。
- ・あまりほめてあげることができていなかったと感じました。ちょっとしたことでも、素直にほめてあげられたらいいと思いました。